

【概要】

住宅ローン利用者の実態調査

【住宅ローン利用予定者調査(2019年度調査)】

※「民間住宅ローン利用者の実態調査」から調査名称を変更いたしました。

I 調査の概要

今後5年以内に住宅を取得する計画があり、かつ、住宅ローンを利用する予定がある方を対象とし、希望する住宅ローンの金利タイプ、住宅取得に向けた意識や行動などについてインターネットによるアンケート調査を実施し、その結果をとりまとめたものです。

(参考) 調査実施時期：2020年3月3日～3月23日、回答数：1,562件

II 調査結果の主なポイント

※< >は、本調査結果の詳細資料中の該当ページ

1 利用予定の金利タイプは、引き続き、「全期間固定型」の希望割合が減少、「変動型」、「固定期間選択型」の希望割合が増加 <p. 2>

- 「変動型」：32.5% (2019年4月実施調査29.5%)
- 「固定期間選択型」：36.0% (同35.1%)
- 「全期間固定型」：31.5% (同35.4%)

2 今後1年間の住宅ローン金利見通しでは、引き続き、「現状よりも上昇する」が減少、「現状よりも低下する」、「見当がつかない」が増加 <p. 3>

- 今後1年間の住宅ローン金利見通しについて、全体では、「現状よりも上昇する」が25.3% (2019年4月実施調査33.6%)に減少した一方、「現状よりも低下する」が17.2% (同10.5%)、「見当がつかない」が20.9% (同18.9%)にそれぞれ増加した。なお、「全期間固定型」では、全体の約3割(29.3%)が「見当がつかない」と回答した。

3 住宅の買い時意識では、引き続き、「分からない」が4割 <p. 5、p. 6>

- 今(今後1年程度)の住宅の買い時意識は、「分からない」が41.2% (2019年4月実施調査41.3%)、「買い時だと思う」が34.4% (同34.2%)、「買い時だと思わない」が24.5% (同24.5%)となった。
- 買い時だと思う理由は、「住宅ローン金利が低水準だから」が79.0% (2019年4月実施調査64.5%)と最も多く、次いで「税制のメリットが大きいから」が40.8% (同35.3%)、「住宅価格が安くなったから」が27.2% (同18.1%)、「住宅取得促進策が実施されているから」が18.1% (同12.7%)が続いた。